

## 故木許博先生の遺したもの

児玉潤子

(会員 中江町)

平成二十八年のAPU(立命館アジア太平洋孔子学院)二豊漢学講座神戸輝夫先生の講義の中に野津の虹澗橋こうかん碑の下りがあった。僭越ながら、佐伯の木許博先生という漢文教師の著書を参考になさっていただきたいと申し上げた。この時すでに神戸先生は木許先生の存在をご存じであった。

その帰り、白杵高校で木許先生の教え子だったという方に声をかけられた。虹澗橋を神戸先生と調査している、木許先生に伺いたいことがあるので連絡できないか、との話だった。

後日、木許先生は亡くなられていたと知り、その旨白杵の方にはお知らせし、家族ぐるみのお付き合いだった史談会の元事務局長の河野信夫氏と法事に参加した。

ご遺族から蔵書を頂くことになり、目録を作成、その

うち三十冊余りを歴史資料館に寄贈の運びとなった。

先生の著書『佐伯地方 碑文の解説』、解説を担当された『豊後 野津郷の石橋』は同級生数人に、大神氏合祀墓誌碑拓本はゆかりの同級生に、貰っていただいた。

歴史資料館に原本があるということで、寄贈書籍から漏れた『佐伯藩の碩儒せきじゆ 秋室明石大助』は私の手元にある。鶴城高校の蔵書のコピー版で「平成四年大賀與平復写」の書き込みがあるため、あるいは大賀氏からの贈呈かと思われる。

昨年末、古文書解読会で米水津も本匠もテキストに枯渴する事態となり、この本で九州大学に秋室の遺稿遺墨いこういぼくがあると知っていたので、何かテキストになるようなものはないか、と検索した。ネット上では所蔵リストに見受けられず、戦争後の混乱もあるであろうから、とあまり期待していなかった。一応、戦前から戦争直後医学部教授であった遠城寺(2)宗徳氏経由で寄贈された佐伯藩儒者明石大助秋室の遺墨遺稿を探している、九州大学のどこに問い合わせをすればよろしいか、という旨をメールした。

「お問い合わせ頂きました明石秋室資料は、当館にて

十二部百十五冊を所蔵しております。コレクションの簡易的な目録を添付しておりますのでご確認ください。

タイトルを当館のOPACで検索いただければ、詳細をご確認いただけます。」とのこと。

数日おいてまたメールが入った。

「当館所蔵の明石秋室旧蔵書につきまして、これまで由来が明確ではなく、旧蔵者も特定できておりませんでした。先日児玉様にお問い合わせいただいたことで、旧蔵者が明石秋室であることが明確になりました。誠にありがとうございます。

今回の件を契機として、明石秋室旧蔵書の紹介ページを作成いたしましたので、お知らせいたします。

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/collections/akashi>

後日明石秋室旧蔵書の目録データへのリンクをはり、通覧できるようにする予定です。

明石秋室旧蔵書の当館への寄贈が本学医学部教授遠城寺宗徳に請われて実現したとのことですが、それを示す資料がこちらでは見つかりませんでした。そちらに寄贈の記録があるとのことですが、もし差し支えなければ、どのような資料に掲載されているのか、ご教示いただけないでしょうか。

いででしょうか。

お手数をおかけいたしますが、何卒よろしくお願いいたします。」

『佐伯藩の碩儒 秋室明石大助』を紹介すると、福岡県内の図書館や大学には無く、大分県立図書館に問い合わせ、情報を得る、という運びになった。

九州大学の秋室蔵書は漢詩を多く詠んだ秋室ならではの漢籍の書写（何しろ当時はご禁制、コピーの無い時代）がほとんどで、残念ながら書状や日記など、我々の楽しめる材料は見受けられず、という顛末ではあった。

PCを操られる方、漢籍漢文にご興味の方はアクセスしてみてください。

(1)「佐伯藩の碩儒 秋室明石大助」柴田勝實編 佐伯文化史研究会昭和二十八年

(2)遠城寺家 平成三十一年佐伯市歴史資料館春季企画展「佐伯藩毛利家の家臣たち―藩士にまつわる物語―」では遠城寺家ゆかり甲冑、太刀、知行折紙などが展示されている。